

ロシア語を母語とする日本語学習者のイントネーション

0. はじめに

ロシアとNIS諸国の日本語教育は文法、読解、翻訳などを重視したもので、発音指導はほとんど行われていないのが現状である。また、学習者が日本語の生の会話に接する機会は非常に少ないと思われる。

このような背景を持つ学習者は、日本語のアクセントとイントネーションには母語干渉が見られ、ロシア語訛りが強く感じられる学習者が多い。特に、ロシア語の疑問文においてイントネーションがほとんどの場合文末で下降するという韻律的特徴は、学習者の日本語の発話にも多く見られる。

日本語のアクセント、イントネーション等の発音指導を日本語学習初期で行うのは重要で、学習者の母語の音韻体系、韻律的特徴、学習者の日本語に見られる母語干渉の傾向についての知識が必要である。しかし、ロシア語母語話者を対象とした音声学的対照研究がほとんど行われていなく、ロシア語母語話者の日本語の韻律に見られるロシア語の影響の傾向を明らかにするには不十分である。

本研究では、ロシア語を母語とする上級レベルの日本語学習者12人を対象に、ロシア母語話者による日本語の疑問文イントネーションの特徴に関する調査を行った。

1. 研究目的

- 1) ロシア語母語話者の学習者による日本語の疑問文文末イントネーションの誤用の中で母語干渉によるものを明らかにする。その他に考えられる誤用の原因として、学習者の中間言語の特徴及び学習者の個人差についても検討する。
- 2) 疑問文文末イントネーションにおける学習者の母語干渉の傾向を明確にする。
- 3) 学習者による日本語の疑問文では文末イントネーションにより文中の単語のアクセントが影響を受けるかを明らかにする。
- 4) ロシア語母語話者の学習者を対象にして、疑問文の種による日本語の疑問文文末イントネーションの習得難易度を明らかにする。

2. 研究の内容と方法

調査協力者：東京圏出身の共通語話者（NS）10名（20~30代の男女）

ロシア語を母語とする日本語学習者（NNS）12名（20~30代の男女）

調査内容：

- 15種の疑問文を含む日本語の12会話をNSとNNSが朗読した音声を録音して、音声解析ソフト（“SUGI Speech Analyzer”）でNSとNNSによる疑問文イントネーションのピッチ曲線

を対照比較した。

- ・上記の日本語会話のロシア語訳を NNS に朗読してもらい、日本語とロシア語の疑問文イントネーションのピッチ曲線を比較した。
- ・NNS による疑問文中の単語のアクセントと単独発話の単語のアクセントについて、NS に聴覚印象により評価してもらった。

研究順序 :

- 1) NS と NNS による日本語疑問文のピッチを次の観点から対照比較した。
 - a) 文末ピッチの上昇・非上昇・下降；
 - b) 文末ピッチの上昇の急激さ；
 - c) 文末ピッチの下降の急激さ；
 - d) 文中の語のアクセントが守られているかを調べた。
- 2) 本調査では分析対象としている疑問文について、NNS の誤用数のデータに基づいて、疑問文の文末イントネーションの習得難易度を明らかにした。
- 3) (1)で分かった誤用のパターンの中でロシア語の影響によるものを明らかにして、その他に考えられるパターンを NNS の中間言語の特徴、または個人差によるものとした。

3. 調査結果

NNS の誤用イントネーションのパターン

- ① 文頭から文末まで徐々に上昇する
- ② 文末でなだらかに下降する
- ③ 文末で急激に下降する
- ④ 文頭から文末拍の前半まで平坦で、文末拍の後半から上昇する
- ⑤ 文頭から文末拍前まで平坦で、文末拍の前半から急激に上昇する
- ⑥ 文中の語のアクセント型は正しいが、文末ピッチは文末拍の前半から急激に上昇する
- ⑦ 文末語のアクセント型が不正確で、文末ピッチが文末拍の前半から急激に上昇する

NNS の日本語の疑問文イントネーションの誤用の傾向

グループ 1 文末ピッチが下降する傾向

文末拍のピッチ



- ・グループ 1 の誤用は WH 疑問文に最も多く現れた。
- ・グループ 1 の誤用の原因は NNS の母語干渉にあると考えられる。
- ・日本語の疑問文で文末ピッチが下降していると、「きつく質問される」という印象を与える。つまり「詰問調」に聞こえ、相手に威圧感を与える可能性がある。また、疑問文として聞き取れない可能性もある。

グループ2 文末ピッチが文末拍の前半から急激に上昇する傾向

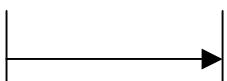
文末拍のピッチ



- ・ グループ2の誤用は選択疑問文、WH疑問文、Yes-No疑問文の文に多く現れた。
- ・ グループ2の誤用の原因是母語干渉も、他言語話者に見られる中間言語の音声特徴も考えられる。
- ・ このようなイントネーションは、日本人に疑問文としては聞き取れるが、話し手が「驚いている」、「怒っている」、または「そっけない」印象を与える可能性がある。

グループ3 文中のピッチが平坦に現れる傾向

文中のピッチ



- ・ グループ3の誤用は選択疑問文に多く現れた。
- ・ グループ3誤用の原因是、母語の干渉も考えられるが、他言語話者の中間言語に見られる、ピッチの極端な上昇・下降を避けるために、文全体を平坦に発話するといったストラテジーも考えられる。
- ・ 文中のピッチが平坦に発話されると、日本人に不自然に聞こえるだけではなく、「元気が無い」、または「無関心」な言い方にも聞こえる可能性がある。

* 上述の①の誤用イントネーションのパターン、文頭から文末まで徐々に上昇するパターンでは、起伏型アクセントの文末語は平板型に似た形になる。このようなイントネーションの発話は、アクセントがくずれ、日本人に不自然に聞こえるだけではなく、上昇は長く、その幅が広いため、話し手が「驚いている」印象を与える可能性もある。

アクセントの誤用

- ① 平板型・尾高型アクセントの単語を頭高型アクセントで発話する
 行く（平板型）→いく（頭高型）；花（尾高型）→はな（頭高型）等
 ・ 単独発話に多く見られるが、疑問文の場合は、文末上昇イントネーションの影響で平板型・尾高型の形になり、疑問文中では頭高型に間違える誤用は少なかった。
- ② 平板型、尾高型と頭高型アクセントの単語を中高型（-2型）のアクセントで発話する
 知ってる（平板型）→しってる（中高型（-2型））；
 食べた（頭高型）→たべた（中高型（-2型））等
- ③ 頭高型・中高型を平板型で発話する
 あなた（中高型）→あなた（平板型）；撮った（頭高型）→とった（平板型）
- ④ 文末拍だけを高く発話する
 妹（尾高型）→いもうと（語末拍上昇型）

⑤ 単語の全ての拍を平坦に発話する

NNSによる日本語の疑問文イントネーションの習得難易度

- ・文末が上昇調で発話され、文末語が平板型・尾高型・中高型アクセントである Yes-No 疑問文、問い合わせ文、WH 疑問文【WH+V?】、また文末が下降調である自問納得文と選択疑問文【V1「か」、V2「か」… ?】は、最も習得しやすいと考えられる。
- ・次に、終助詞「か」が付いた Yes-No 疑問文、文末語が頭高型アクセントである Yes-No 疑問文、また文末語が尾高型アクセントである WH 疑問文はやや習得しやすいと考えられる。
- ・文末語が頭高型アクセントである文、また文末に疑問詞がある WH 疑問文と選択疑問文【N1、それとも N2?】の 2 番目の疑問文【…、それとも N2?】は、最も習得しにくいと考えられ、これらの疑問文にはロシア語のイントネーションと同様に文末が下降する誤用が最も多く見られる。

4. 今後の課題

- 1) 文末を下降させる、文末拍を急激に上昇させる、また文中を平坦に発話する 3 つのパターンの誤用イントネーションで発話された疑問文を NS に聞かせ、それぞれの発話はどのような印象を与えるかについて調べる。
- 2) 各疑問文の種類において文末語のアクセント型によって文末イントネーションがどのように異なるかを調べ、疑問文イントネーションの習得難易度についてもより詳しく調べる。
- 3) 初級、中級の学習者を対象に同様の調査を行い、日本語の疑問文イントネーションの習得とその段階についてより詳しく調べる。
- 4) ロシアと NIS 諸国における日本語の疑問文イントネーションの指導、また使用される教科書の疑問文イントネーションの表記について調べる。
- 5) 他言語話者の中間言語に見られる日本語イントネーションについても同様研究を行う。

参考文献

- 鮎澤孝子(1991)「イントネーションと日本語教育」『日本語学』第10巻 第7号 明治書院, 98-113.
- (1991)「諸言語話者による日本語問い合わせの韻律的特徴」『日本語音声』研究報 6 研究成果報告書, 89-94.
- (1992)「日本語の疑問文の韻律的特徴」『日本語の韻律に見られる母語の干渉(2)－音響音声学的対象研究－』文部省重点領域研究『日本語音声における韻律的特長の実態とその教育に関する総合的研究』研究代表者：杉藤美代子（以下「日本語音声」）D1 班平成 2 年度研究成果報告書, 1-20.
- (1993)「外国人学習者による日本語の質問文イントネーションの習得過程」『日本語音声と日本語教育－外国人を対象とする日本語教育における音声教育の方策に関する研究－』文部省重点領域研究 D1 班平成 4 年度研究成果報告書, 161-186.
- 戸田貴子 (2001) 「日本語音声習得研究の展望」『第二言語としての日本語の習得研究』4 号 第二言語習得研究会, 150-169.

資料 1

会話文

- (1) A : この人、知つてましたか?
B : 道子? !... ああ、友達の妹だ。
- (2) A : この人知つてる?
B : 道子?!
A : 何だ...彼女知つてましたか...
- (3) A : 良いお天気ですね。窓を開けるわ。
B : もう朝ですか?
A : そうよ。
- (4) (時計を見て)
A : ああ、もう朝ですか...
- (5) A : 花を買つてくるね。
B : 花? 何の花?
- (6) A : 何にする? ユリがお勧めよ。
- (7) A : それは何?
B : どれ? これ? 今朝の手紙。
A : えつ、今日これだけ?
- (8) A : もう食べた?
B : うん。
- (9) A : あつ、これはどこです?
B : これはね、沖縄。去年妹と一緒に行つたんだ。
A : そう? きれいな写真ですね。誰が撮つた? あなた、それとも妹?
- (10) A : 抗議デモに行く?
B : デモなんて! 行つても意味ないんじやん?
A : とにかく決めて。行くか、行かないか、どうする?
- (11) A : ミキちゃん、明日のパーティーに何を持って来るんでしたっけ?飲み物?
B : ええ、ソフトドリンクを…
- (12) A : ミキちゃん、明日のパーティーに飲み物を持って来られる?
B : 飲み物? ええ、いいよ。

(1) Yes-No 疑問文 :

- ① 【V+「か」?】(「この人知つてましたか?」) ② 【N+「か」?】(「もう朝ですか?」)
③ 【V? (上昇調)】(「この人知つてる? / もう食べた?」) ④ 【N? (上昇調)】、尾高型/平板型アクセント(「これ? / これだけ?」) ⑤ 【N? (上昇調)】、中高型アクセント(「飲み物?」)

(2) WH 疑問文 :

- ⑥ 【WH+V?】(「何にする? / 誰が撮つた?」) ⑦ 【WH+N?】(「何の花?」)
⑧ 【(~) WH?】(「それは何? / どれ?」) ⑨ 【WH+N です?】(「これはどこですか?」)

(3) 問い返し :

- ⑩ 【N? (上昇調)】相手の文の一部、尾高型アクセント(「花?」)
⑪ 【N? (上昇調)】相手の文の一部、中高型アクセント(「飲み物?」)

(4) 自問納得 :

- ⑫ 【V+「か」?】(「何だ... 彼女知つてましたか...」) ⑬ 【N+「か」?】(「ああ、もう朝ですか...」)

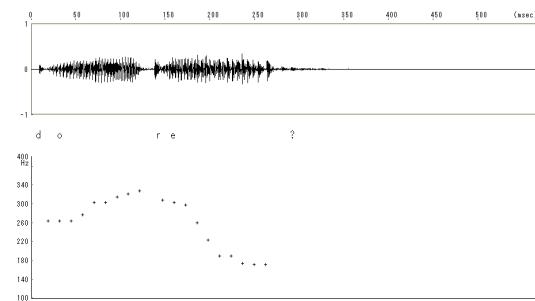
(5) 選択疑問文 :

- ⑭ 【N1、それとも N2?】(「あなた、それとも妹?」)
⑮ 【V1+「か」、V2+「か」、どう?】(「行くか、行かないか、どうする?」)

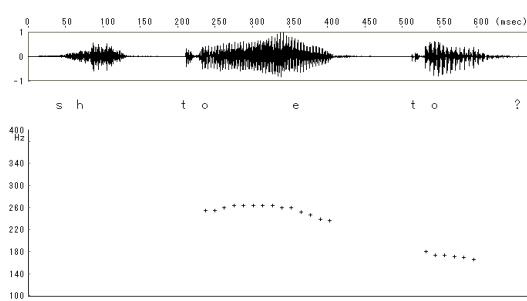
資料 2

NNS の日本語の疑問文イントネーションの誤用の傾向

グループ 1 文末ピッチが下降する傾向

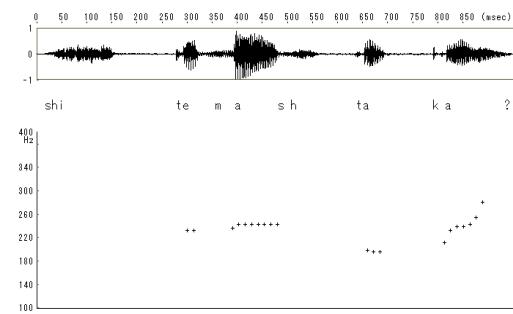


- NNS による「どれ？」のイントネーションのピッチパタン

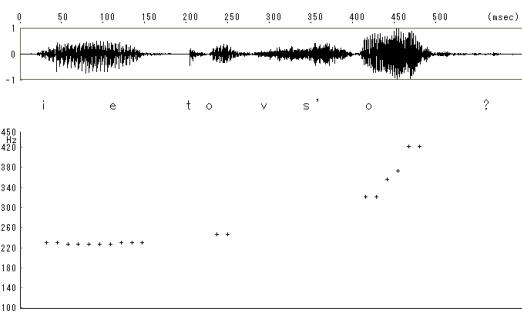


- NNS による「それは何？」のロシア語訳のイントネーションのピッチパタン

グループ 2 文末ピッチが文末拍の前半から急激に上昇する傾向

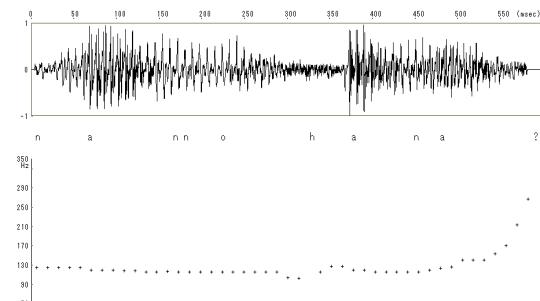


- NNS による「知ってましたか？」のイントネーションのピッチパタン

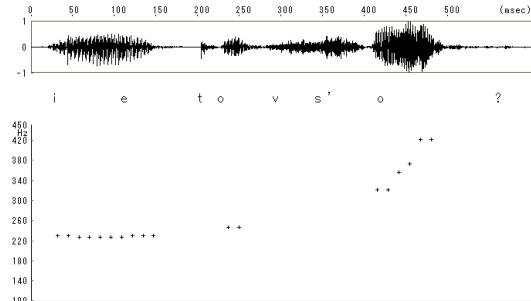


- NNS による「これだけ？」のロシア語訳のイントネーションのピッチパタン

グループ 3 文中のピッチが平坦に現れる傾向



- NNS による「何の花？」のイントネーションのピッチパタン



- NNS による「これだけ？」のロシア語訳のイントネーションのピッチパタン